

# 江戸の 牙 雅 なる宴

フェート・ギャラント

**入場無料**

**【開催期間・日時】**

平成24年6月21日(木)～7月31日(火) 9:30～17:30

日曜は休館 \*7月16日(海の日)は開館

**【会場】**

共立女子大学 神田一ツ橋キャンパス 本館1階展示室

東京都千代田区一ツ橋 2-2-1 Tel: 03-3237-2425

**【アクセス】**

①東京メトロ半蔵門線・都営地下鉄三田線・都営地下鉄新宿線

神保町駅下車 A8 出口から徒歩1分

②東京メトロ東西線 竹橋駅下車 1b 出口から徒歩3分

# 江戸の雅なる宴

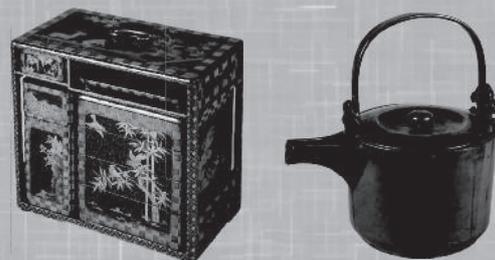
フェート・ギャラント

18世紀、ロココの文化が花開くフランスで流行した「<sup>がえんが</sup>雅宴画 (fête galante フェート・ギャラント)」という画題があります。絶対王政下の貴族たちが好んだ、田園風景の広がる屋外での饗宴を描いたものです。時を同じくして、江戸時代の日本でも良く似た画題が流行しました。17世紀から18世紀にかけて多数の作例が残る「<sup>ゆうらくず</sup>遊楽図」です。<sup>かかゆうらくずびょうぶ</sup>共立女子学園所蔵「花下遊楽図屏風」(18世紀)には、満開の桜の下での宴が大きく描かれています。フランスの「雅宴画」と日本の「遊楽図」。都市に生きる人々が自然の中で束の間の宴に興じる姿を描く両者には、享楽と退廃がないまぜとなった時代精神が写し出されています。本展で

は、同屏風を中心に酒器や野点用の煎茶道具などを展示して、江戸時代の雅なる宴を再現します。また、写真パネルを用いて18世紀フランスとの比較という視点から「遊楽図」を捉え直してみたいと思います。



かかゆうらくずびょうぶ  
「花下遊楽図屏風」(右隻) 江戸時代 18世紀



ふろけいまさえさげじゅう  
左:「風景時絵提重」江戸時代 18世紀  
ねごろぬりさけつぎ ゆとう  
右:「根来塗注江(湯桶)」江戸時代 17世紀

## 屏風に描かれる様々な情景

のぶろ ↓野風炉 (携帯用の湯沸し・保温器、野点用のだて 物見遊山に使われた) の炭を熾す。(左隻)



↓色とりどりの小袖で着飾って、宴を楽しむ女性たち。元禄から宝暦頃の風俗が反映された描写と考えられる。(左隻)



→琵琶法師と笛吹きが宴に賑わいを添える。御馳走のつまった重箱や酒器も描かれている。(右隻)



↑幔幕の中の主人を待つ従者たち。手持ち無沙汰にあくびをする仕草は、中世以来「従者が待つ」場面を描くときの定型的表現。幔幕には下がり藤紋。(右隻)

→船着き場の情景。船宿で客を迎える女性と、従者を連れた侍が言葉を交わす。(右隻)



ころていらん  
「葫蘆提籃」江戸時代 18世紀

## 関連イベント (事前予約不要 学外の方もご自由にご来聴ください)

### 特別講義 (オープンレクチャー)

「宴の時代、雅宴画と遊楽図

— 17~18世紀のパリと江戸

7月7日(土) 13時20分~14時50分

共立女子大学 本館108A教室

【講師】

エリカ・ベシャル＝エルリー (国際学部 教授)

山本聡美 (文学学部 准教授)

### ギャラリー・トーク

7月3日(火) 12:30~13:00

共立女子大学 本館1階ロビー

【解説】

山本聡美 (文学学部 准教授)